

水分ストレスの簡易現場診断による九州産極早生温州の高糖度化技術の開発

1 中核機関・研究総括者
佐賀県果樹試験場 新堂 高広

2 研究期間
2004～2006 年度（3 年間）

3 研究目的

九州産の極早生温州ミカンには低糖度が問題となっている。このためマルチ栽培において、現場で簡易に水分ストレスを測定する技術を開発するとともに、糖度向上のための最適水分ストレスモデルを作成し、これらの技術を利用して極早生温州の新品種を中心に、糖度 11 度以上の高糖度果実の安定生産技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 水分ストレスの簡易現場診断技術の確立（（独）九州沖縄農業研究センター、（独）果樹研究所カンキツ部口之津、佐賀県果樹試験場、長崎県果樹試験場、福岡県農業総合試験場）

樹体水分や生態情報を用いて水分ストレスを診断するための技術開発を行う。

② 糖度向上のための最適水分ストレスモデルの作成（佐賀県果樹試験場、熊本県農業研究センター果樹研究所、佐賀みどり農業協同組合）

新品種や土壌母材に適応した最適水分ストレスモデルを作成する。

③ 簡易現場診断法と最適水分ストレスモデルを利用した高糖度化の実証（福岡県農業総合試験場、長崎県果樹試験場、佐賀県果樹試験場、佐賀みどり農業協同組合、熊本県農業研究センター果樹研究所）

最適水分ストレスモデルに誘導するための水分管理技術を開発し、現地での実証を行う。

5 目標とする成果

マルチ栽培における九州産極早生温州ミカンの安定した高糖度化が実現できる。これにより、糖度 11 度以上のブランドミカンの割合が倍増し、農家経営の安定に寄与することが期待される。